

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370200521		
法人名	有限会社ティム		
事業所名	喫茶去		
所在地	八代市田中西町11-2		
自己評価作成日	平成31年1月23日	評価結果市町村報告日	平成31年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	平成31年2月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>定員5名という少人数のご入居者を、みんなで心を寄せ合って介護しています。喫茶去を我が家のように、また、スタッフを家族のように思ってくださいと嬉しいな・・・との想いで日々過ごしています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>古い中にも新しさを感じる静かな住宅街にある、定員5名のホームはよき時代の家族の日常が営まれています。代表者の「できるだけ我が家に近い住まいの場」で「昔ながらの普通の暮らし」を大切に、「一緒に暮らす家」の思いの言葉は、この一年で入居者・職員ともに入れ替わりも見られましたが、ホームの柱になって続いています。管理者が久しぶりに交代し、以前の管理者は、ホームの強みであり入居者の一番の楽しみである食事担当し、現管理者の質の高いケアと研修等に力を注ぐことでホームに厚みが出てきたことを感じることが出来ます。これからは、ホームが地域の資源の役割を担って行かれることを期待します。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「わけ隔てなく仲良くお茶を飲みましょう」この理念を共有し、実践に努力しています。	「できるだけ我が家に近い住まいの場を」との代表の気持ちが表れた理念は職員だけでなく来訪者にも自然と目につく場所に飾られており、事業所の雰囲気そのものである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者の皆様が重度化するにつれ、外出が困難になってきています。家族やボランティアの訪問を積極的に受け入れ、社会交流の機会を作っています。	入居者の身体状況によりそれぞれ気軽な外出は難しくなっているが、家族や家族の来訪により交流している。今年は定期的な運営推進会議の開催により特に地域との繋がりが大きくなり、新たな交流に繋がった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居とは関係なく、家族からの相談にも応じ、助言しています。地域での研修に参加して情報収集することで、適切な助言ができるようにつとめています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、入居者の状況報告や運営状況等報告しています。参加者である市担当者・地域包括支援センター職員からは、制度上の助言や指導をいただき、町内会長・民生委員からは地域の情報を頂くなど、喫茶去の運営に役立っています。	2ヶ月に1回の運営推進会議は家族・町内役員・市役所・地域包括支援センターからの参加により開催している。会議では事業所の様子を伝えるとともに地域からの情報を得る等、相互の関係構築を行っている。	運営推進会議には家族の参加も多く、アンケートでも会議が充実している意見が見られました。利用者を地域・家族・事業所で共に支えることにも繋がる会議の継続に期待しています。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者には、運営推進会議だけでなく何かと相談のつてもらいます。特に平成30年度は、介護報酬改定があり、なかでも身体拘束の適正化の取組が強化されました。書式の作成や取組の詳細について、細かくご指導いただきました。今後も、市や地域包括支援センターとの連携を図っていきます。	運営指針会議への参加によりこれまで以上の協力関係作りを行っている。特に今年度は指針の作成等もあり、打合せを密に行うことでより連絡・協力しやすい体制ができた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体的拘束等適正化のための指針」を作成し、スタッフ全員に周知しました。身体拘束とはどんな行為をいうのか、事業所としての方針、基本的なケアの方法等、研修の場を設けました。	これまでも職員同士声を掛け合い、身体拘束をしないケアを行っていたが、今年度は指針の作成を機会に全職員に周知し、また新しい職員も増えたことから、改めて研修の機会を持っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「身体的拘束等適正化委員会」を2ヶ月に1回実施しました。また、外部での研修に3回参加し、施設内研修を2回することで、高齢者虐待防止の理解を深めました。		

グループホーム菊南スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護制度を活用している方はありませんが、研修に参加して情報や知識を身につけておくようしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約者に対し、説明をし、いつでもお尋ねに応えることを伝えています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営会議の際に、ご家族の意見・要望を聞く時間を設けています。しかしそれよりも、日頃の面会時に、ご入居者の様子をお伝えし、相談に応じるなど、お互いに思ったことを言い合える雰囲気作り、信頼関係の構築を大切にしています。	日頃より家族等の訪問もよく見られ、その際には入居者の様子を伝えることで意見・要望を出してもらえる機会となっている。運営推進会議ではほとんどの家族の参加が見られ、法人でも検討の上、必要に応じ運営へ反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや、話し合いの中で、よりより支援について意見を聞き、現場に反映させています。	代表者・管理者も毎日の業務に携わり、職員とも関することで話し合う機会が多く、意見も出しやすい状況である。日頃から良いケアに繋がるための検討・取組みが行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、スタッフ個々の努力や実績について把握し、向上心をもって働けるよう職場環境を整える努力をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者はスタッフ個々のケアの力量を把握し、働きながらトレーニングしていくことを進めています。外部での研修も、積極的に参加させています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡会主催の研修会や、地域包括支援センター主催の研修会など、研修に参加するだけが目的でなく、地域の事業所との情報交換を行い、ネットワークを広げています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初は、環境の変化からくるストレスが大きく、心身ともに不安定です。ご本人の不安に耳を傾けながら、信頼関係を築くことを大切に支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居してすぐ不安なのはご家族も一緒です。入居前に自宅での様子を聞き取ったり、家族の不安・要望を聞きだすなど、コミュニケーションをとりながら、家族の信頼関係も大切にします。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	心身の不調については、主治医と連携を図りながら、内服でコントロールすることもあります。入居初期には、ご家族との話し合い・電話連絡を密に行い、精神の安定を図るようにします。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	喫茶去は、ふつうの暮らしを楽しむ家です。ご入居者・スタッフ、分け隔てなく支え合って生活しています。お元気なご入居者には家事を手伝っていただき、介護がたくさん必要なご入居者にはおしゃべりや笑顔で元気をいただいています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	スタッフにまかせきりにならないよう、家族の登場場面が多くなるよう、共に支える関係を築いていく努力をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族だけでなく、親戚、昔からの友人・知人、近所に住んでいた方、主治医…色々な方が訪問して下さいます。これからも馴染みの縁を大切にします。	来訪者には家族だけでなく、地域の方や知り合い等も継続している。今年は新たなボランティア受入れもあり、交流も広がってきた。近隣美容院からの来訪や近隣からの来訪等、入居後の新たな関係も継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話が成立するよう、座る場所や、スタッフの関わり方に工夫し努力しています。		

グループホーム菊南スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退居後も、本人、家族との縁を大切にし、交流を続けています。退去後にたびたび訪問して下さるご家族もあり、とても嬉しく思います。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が、どういう暮らしを希望されているのか、日常会話の中や、ちょっとした態度から、ヒントをつかみ、家族とも話し合い、把握に努めています。	入居者それぞれと生活を共にすることで言葉や態度から意向を把握し、また家族との話し合いの中で確認しながらケアを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴などは、日常の会話に大切な情報ですので、家族や本人から、プライバシーに配慮しながらお尋ねしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の希望する過ごし方、心身状態、力などの現状には、日々変化があります。把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を尊重しながら、スタッフ全員と話し合っ、ケアの方向性を決定します。主治医の助言も参考にしながら、介護計画を作成します。	入居者の意向を大切に、全職員にてそれぞれの入居者について話し合いを行っている。見直しは半年に1度、また必要に応じて家族も交えた担当者会議も行い、随時現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、気になった会話まで記録に残し、スタッフ全員で共有します。記録を振り返ることで、実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに、応えられるよう、その時々柔軟な対応に心がけています。		

グループホーム菊南スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問診療(歯科も含む)や訪問理美容、定期的に訪問していただき支えていただいています。今後も地域資源について情報を集め一人ひとりの支援に役立てたいと思います。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向を尊重しながらかかりつけ医との連携を図り、必要な医療が受けられるよう努めています。	入所前からのかかりつけ医での受診を支援している。定期受診は職員付き添いで、受診には家族同席も多い。専門医等受診には出来るだけ家族の付き添いもお願いしている。	定期的な通院は外出の機会ともされており、地域での通院歴も長いことから医療機関との連携、家族との連携・協力体制の様子が伺えました。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内に看護職がいないこともあり、心身の不調を早期発見する気づきのトレーニングをしていきます。体調に変化がみられれば、主治医へ連絡、緊急受診にて悪化を防ぎ、必要あれば往診や訪問看護の検討もしていきます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、病院に同行して、病院関係者へ口頭及び書面をもって情報提供を行います。また、退院時には、病状や身体状況の情報収集を行い、退院後の生活が安心して再開できるよう、常に医療機関との連携を図ります。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や、終末期については、かかりつけ医との連携も強化して、家族とよく話し合い、希望に寄り添えるよう、個々に対応しています。施設内では、スタッフの不安を軽減するよう、カンファレンスを実施します。	終末を迎えることは自然なことと受入れ、希望により出来るだけの支援を行っている。その時期を迎えた際には家族同席で担当者会議を行い、意向を確認しながら医療機関・家族・事業所連携のもと支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生については、家族への連絡、救急車の要請など、実践力を身に付けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者・スタッフ全員で災害訓練を実施します。	避難訓練は昼・夜想定で年2回実施している。非常の際は職員の連絡網も整っている。今後、運営推進会議で様子を見て頂く等検討しているところである。	運営推進会議で避難訓練の様子を伝えることは、事業所や入居者それぞれの様子を伝える良い機会と思います。近隣との連携・体制の再確認等も期待します。

グループホーム菊南スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心がけています。	従来より代表者が常々職員に伝えてきたことであり、少人数であるからこそそのプライバシーの確保、一人ひとりの尊重には配慮している。今年はテーマを決め内部研修にも取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が、日常生活の中で、安心して自己表現や自己決定が出来るような環境づくりに、努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれのペースにあった暮らしが支援できるように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれの好みに合った身だしなみや、おしゃれが出来るように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しい時間になるように、好みや出来ることを把握し、それぞれに支援しています。落ち着いて食事がとれるよう、座る場所にも配慮しています。	入居者それぞれ好みや体調に合わせた食事は、地元の食材もふんだんに使用された職員手作りの家庭的な料理で好評である。入居者の関係性や介助の状況から席にも配慮し、落ち着いて食事が出来る環境である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスや水分量を頭において、食事やおやつを支援しています。介護度が重度になると、咀嚼力や嚥下力が低下します。それぞれの咀嚼・嚥下力に応じた食形態を工夫します。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、それぞれの状態に応じた口腔の清潔保持に努めています。年1～2回、訪問歯科による口腔内のチェックも実施しています。また、口腔体操や歌をうたうことで、口腔の機能低下を防ぎます。		

グループホーム菊南スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄パターンを把握し、声掛けも行い、気持ちよくすごせるよう支援しています。	一人ひとりの状況に合わせて対応している。身体状況によりオムツ使用もあるが、入所後は安易にオムツ使用へと移行せず、出来るだけ介助等によりトイレやポータブルを利用した排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く取り入れた食事や、毎日の運動等、できるだけ便秘しない生活を心がけていますが、どうしても便秘気味のご入居者は主治医に相談し、内服でコントロールすることもあります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調に応じてゆっくり入浴していただきます。皮膚の清潔保持と状況観察もでき、皮膚のトラブルがあれば主治医に処方していただいた軟膏で処置します。入浴は、楽しい時間としてすごしていただけるよう、音楽も取り入れるなど工夫しています。	週2回を基本とし、それぞれのその日の体調に応じてゆったりと入浴が出来るよう対応している。支援が必要である入居者も多くなってきているが、音楽も取り入れ、それぞれのペースでの入浴介助をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活習慣の把握に努め、安心して休息したり、眠れるよう環境や寝具を整えます。どうしても眠れない方は、主治医に相談し不眠時の薬を処方していただくこともあります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬について、職員間で情報交換し理解を深め、服薬支援をしています。服薬忘れや誤薬がないように、慎重に取り扱います。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの好みや、やりたいことを把握し、役割、楽しみの支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	お体の状況によっては、外出が困難な方もありますが、ご本人やご家族からの希望があれば、安心して外出できるよう支援しています。	入居者の状況により全員での外出等は難しい状況であるが、個々の家族協力により外出等も見られる。定期受診等は外出の機会ととらえ、医療機関へ出向いている。個別ではあるがドライブ等外出支援も課題として取り組むよう検討中である。	定期受診を利用しご家族と会ったり、家族との外出に繋げたりと、家族と共に入居者を支える様子が伺えました。また美容の面では訪問受入れだけでなく、一部入居者を店舗に連れて行く等、外出に向けた支援の様子がありました。

グループホーム菊南スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は、本人の希望を尊重し、家族の理解の下支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をかけたり、手紙を書いたりできるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や、季節のお飾りなど、楽しく、ほっとできる空間づくりに努めています。	明るく陽があたる縁側を思わせるリビングや共用空間では外を眺めながらゆったりと過ごすことができる。ソファでくつろぎのんびりと過ごす入居者の姿は毎日の生活が穏やかに営まれていると感じる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間に、椅子を置いて、どこにでも座れるよう工夫しています。また、リビングはいつでもくつろげるよう、温度や照明などで暖かく明るく雰囲気を整えます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心してくつろげる空間になるよう、本人、家族と話し合っって居室を整えています。写真・人形・花など。	使い慣れた道具等が持ち込まれ、家族との話し合いのもと穏やかな生活ができるよう整えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ安全に、安心して暮らせるよう、バリアフリーや手すり、椅子などに工夫をしています。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 喫茶去
 作成日 平成31 年 3 月 9 日

【目標達成計画】

優先 順位	項 目 番 号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	2	外出の機会が少なく、地域や社会との交流が十分でない。	外出支援やボランティア受け入れ等を通じて、地域（社会）交流の機会をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> ・気候のよい春・秋に外出の行事を計画・実施する。 ・お誕生会等ボランティアを受け入れ、他者との交流の機会をもつ。 	6ヶ月
2	35	災害対策に、地域の協力を得られていない。	災害対策の質を高めるとともに、万が一に備えて地域の協力が得られるよう、合同の訓練を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルやフロー図の見直し ・運営推進会議を活用しての訓練の実施 	6ヶ月
3	14	昨年管理者が交代し、地域にある同業者とのネットワークが定着していない。	地域の事業所と交流し、連携を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域密着型サービス連絡会への参加を継続。 ・地域包括支援センター主催の会議や研修に積極的に参加する。 	6ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。